

インタープロトの主演は、アスリート(人間)だ!!



インタープロトシリーズ
提唱者
関谷正徳氏
インタビュー

インタープロトシリーズが目指したのはドライバーが主役となるモータースポーツです。スポーツは人間が主役です。アスリートが磨き上げてきた技術こそ、最も価値があり、そこから生み出された結果はアスリート自身への称賛となります。

自動車の歴史がスタートして以来、いろいろな場で性能の比較が行われ、それが自動車の技術的な進歩・発展を加速させてきました。速さや耐久性に優れるということが自動車の大きな価値であり、レースでそれを実証することができたメーカーはプレミアム・ブランドとして認められました。しかし自動車普及し始め、レースに多くの人々が興味を持つようになると、時代はヒーローを生み出していきます。偉大なドライバーが登場し、それに憧れてレーシングドライバーを目指す若者も増えていきました。機械を主役としたレースが人間を主役としたスポーツへと変質し、モータースポーツが生まれたのです。

インタープロトシリーズの狙いのひとつとして、「Made in Japanへのこだわり」があります。海外からマシンを輸入すれば、資金が海外へと流出することになります。日本国内へ資金を回すことで、日本のレース技術は進化し、レースガレージも存続できます。日本は、スーパーフォーミュラやスーパーGTといった独自のレースを企画・開催してきました。F1へステップアップするドライバーの最終テストの場として、日本のスーパーフォーミュラは注目されています。マシンの性能だけでなく、高度なセッティングや戦略といった日本のレーシングチームが持つ技術から学び、対応することがF1ドライバーに求められるからです。実際にインタープロト専用マシン「kuruma」は、6速シーケンシャルのギヤボックスとステアリングギヤ、その2つのユニット以外は全て日本製で、それぞれのレーシングファクトリーが組み立てます。Made in Japanへのこだわりは、日本の技術の継承を狙ったものであり、日本のモータースポーツの将来を見据えたものです。

7年目のシーズンを終えたインタープロトシリーズですが、白熱したバトルシーンが注目されています。インタープロトシリーズは、イコールコンディションのマシンを使ったトップカテゴリーのレースを目指しています。同じマシン、エンジン、タイヤでトップドライバーが戦うレースは他に存在しません。若手ドライバーにとっては、活躍するトップドライバーに挑み、その速さを証明するステージになります。逆にトップドライバーは、その挑戦を跳ね返して見せる必要があります。白熱したバトルシーンが展開されるのは、自然の成り行きです。結果だけでなく、その過程も同等に重要なので、クリーンなバトルシーンを目の当たりにすることができるのです。

インタープロトシリーズは、ほぼドライバーだけにフォーカスした、新しいモータースポーツの形です。多くの人のモータースポーツ観を変えられることがインパクトがあると考えています。

子供から大人まで楽しめるイベントやコンテンツが盛りだくさん!

レースだけでなく、インタープロトシリーズのマシンを体感できる同乗走行体験やシュミレーター体験、普段なかなか見ることのできないキーパーのコーティング作業を間近で見られる「Keeperブース」、子どもが遊べる遊具やキッズカート、女性も楽しめるネイルや雑貨、占いブースなどイベントやコンテンツが盛りだくさん!



IPSマシンやスポーツカーなどの同乗体験!



キーパーコーティング作業を見られるKeeperブース!



キッズバイク体験会や“ふあふあ”は子どもに人気!



女性が楽しめるネイルやリフレ、占いなどもあります!



2020年インタープロトシリーズ スケジュール

第1戦	5/ 9(土)・10(日)	富士スピードウェイ
第2戦	7/25(土)・26(日)	鈴鹿サーキット
第3戦	10/10(土)・11(日)	富士スピードウェイ
第4戦	12/12(土)・13(日)	富士スピードウェイ



究極のイコールコンディション!
言い訳無用の真剣勝負!!

インタープロトシリーズ

しかし、IPSの神髄はやはりプロドライバー達のレース。日本を代表するチャンピオンたちが、イコールコンディションでガチンコレースを戦います。特に若いレーサー達は、自分の実力を示せる絶好の機会なので、遠慮なしにスーパーフォーミュラチャンピオンや、スーパーGTチャンピオンの先輩達に襲いかかっていく!

こんな面白いレースはありません。しかし、自動車メーカーのバックアップがあるわけではないので、運営も楽ではありません。だが、観客は徐々に増え、観客席も埋まりはじめています。Keeperが



Keeperは冠スポンサーとなり、インタープロトシリーズを応援しています!

インタープロトシリーズ(IPS)とは、レース界のレジェンドの1人、関谷正徳氏が提唱して始めたレースです。

車は、すべて共通の「Kuruma」という本格的なカーボンモノコックのミッドシップレースカー。排気量は4000ccで、FJクルーザー用の頑丈なエンジンであり、レース用にチューニングがされ、高性能を発揮しながら高いコストパフォーマンスを実現しています。タイヤも全車同一(横浜タイヤ)です。

また、IPSには「ジェントルマン(アマチュア)クラス」があります。たとえばディーラーのオーナーが本格的なレースカーを所有するだけの資金力を持ちつつ、自らもレースに出場。それがタイム的にもなかなかで、面白いレースを見せてくれます。

【インタープロトシリーズレースとは?】



ジェントルマンドライバー

- ・マシンのオーナー
- ・本業を持ちながらアマチュアドライバーとして参戦



プロドライバー

●マシン1台を“2名”のドライバーでシェアします。

ジェントルマンドライバーはプロと走行データを比較できるため、自らのレーシングスキルアップにつながります。またプロドライバーはジェントルマンドライバーに適切なドライビングアドバイスを与えます。

●各大会の流れ

公式予選	公式予選
大会第1レース	大会第1レース
大会第2レース	大会第2レース

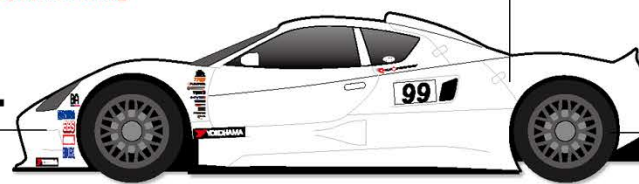
こういう本物のレースをカバーすることによって、コーティングとして本物であるスポンサーをアピールできるのではないかと考え、冠スポンサーとなりました。スポンサーが本物であることをアピールすると同時に、IPSの面白さを世により広く知らせられたらと考えています。

お子様から大人まで、初心者も、レース好きもすべての人が楽しめる、エキサイティングな「インタープロトシリーズ」ぜひ遊びに来てください!

●同じ車でガチンコ勝負!!「kuruma」

同じ、シャシー

【シャシー】カーボンコンポジット&パイプフレーム



同じ、エンジン

【エンジン】V6 4,000cc
【パワー/トルク】340ps/6,400rpm/
45kgm/4,000rpm
Ricardo 500Nm
【トランスミッション】6速シーケンシャル
トランスアクスルレギヤボックス

同じ、タイヤ

【タイヤ】YOKOHAMA
Fr 280/680/18
Rr 280/650/18